

源 頼朝 と 熱田

～「鎌倉殿の13人」の前～



ヤマトタケル



楊貴妃



源 頼朝

大河ドラマ「鎌倉殿の13人」が始まっていますね。



私も今後の展開が楽しみです。



頼朝殿は、京で育ち、平清盛によって伊豆に流されたとドラマの中で説明されていましたね。確か、頼朝殿は熱田生まれだと聞いていますが。



母の実家が熱田なんですよ。



頼朝様と熱田のつながりについて教えてほしいわ。





分かりました。
話しは、ひいおばあちゃんの時代まで遡ります。

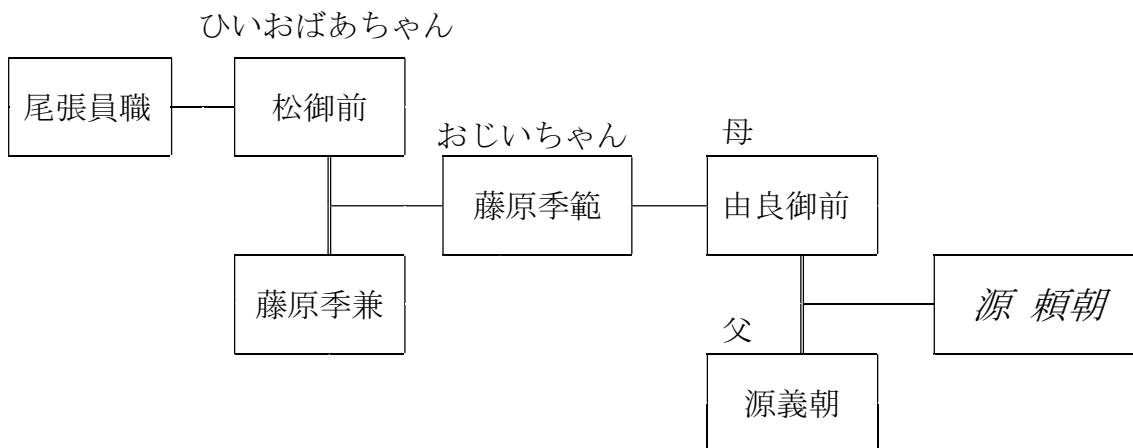
母方は、熱田の地で代々熱田大宮司職を世襲してきた尾張氏とつながりがあります。

大宮司が全盛期だったころは、中央から尾張に任じられている地方官の国司を上回る実力を持っていました。

しかし、時代が移り変わり、情勢が変わってきたようです。大宮司家の尾張氏も国司と手を結んだ方が有利と考えたのでしょう、当時大宮司であった尾張員職（かずもと）は、自分の娘の松御前と目代（現地に行かない国司に代わって現地にいる人）として尾張に赴任していた藤原季兼（すえかね）を結婚させました。

そして、夢のお告げがあり、員職は孫の藤原季範（すえのり）に大宮司職を譲ることにしました。それ以後大宮司職は尾張氏を離れ、藤原家（千秋家）の世襲が続きます。

おじいちゃんの季範は熱田大宮司ではありましたが、京に住んでいました。そして、その娘で私の母である由良御前（ゆらごぜん）は父の源義朝と京で知り合い、結婚しました。



そのころ、第一子は母親の実家で産む習わしがあったようで、母は熱田の実家に帰り私を産みました。



熱田神宮内のくさなぎ広場に「松御前之碑」と「歌碑」があるので、熱田神宮参拝の折にはぜひ立ち寄ってください。

くさなぎ広場



歌碑



松御前之碑



歌碑には

「桜花ちりなむ後のかたみには まつにかかれる藤を頼まん」とあります。



「尾張氏の後には、松御前の血筋を引く藤原氏を大宮司として信頼しよう」という意味です。これは、熱田大明神様の御歌で、明神様がこのように宣託されたと、玉葉和歌集に書かれています。

熱田神宮境内の案内図



熱田神宮のすぐ近くに私の生まれた地があります。
私が産まれた時は熱田大宮司藤原氏の別邸でしたが、
現在は誓願寺となっています





誓願寺の中の庭には「頼朝公産湯池」の石碑があります。
当時、別邸の中に池があり、その水を汲んで産湯にしてくれた
そうです。

